

産業技術総合研究所 自己評価検証委員会  
生命工学領域分科会 議事要旨

1. 日時：令和3年3月12日（金）13：00～17：20

2. 場所：Web 会議による開催

3. 議事概要

(1) 領域の概要 生命工学領域 領域長 田村 具博

- 資料に基づき、領域のマネジメントについて説明が行われた。

(2) 社会課題の解決に向けて全所的に取り組む研究開発

○QoLを向上させる高品質・高機能・高精度な治療・診断技術の開発

生命工学領域研究戦略部 研究戦略部長 亀山 仁彦  
次世代治療・診断技術研究ラボ 研究ラボ長 丸山 修

- 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、新型 PCR 装置の普及について、技術の社会実装について議論が行われた。

(3) 経済成長・産業競争力の強化に向けて各領域で重点的に取り組む研究開発

○医療システムを支援する先端技術の開発

生命工学領域研究戦略部 研究戦略部長 亀山 仁彦

- 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、ジスルフィドペプチドの医薬品への応用や、ベンチャー設立について議論が行われた。

○バイオエコノミー社会を実現する生物資源利用技術の開発

生命工学領域研究戦略部 研究戦略部長 亀山 仁彦

- 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、汚泥消化プロセスの微生物のコミュニティの重要性、IgM 抗体の具体的な今後の医療への応用について議論が行われた。

(4) イノベーション・エコシステムを支える基盤整備

○バイオものづくりを支える製造技術の開発

生命工学領域研究戦略部 研究戦略部長 亀山 仁彦

- 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、天然化合物の骨格改変技術の新規性、海外との共同研究とそれに伴う人材育成について議論が行われた。

○先進バイオ高度分析技術の開発

生命工学領域研究戦略部 研究戦略部長 亀山 仁彦

- 資料に基づき、研究領域より詳細説明が行われた。その後、シーズを出す自由度と社会実装のバランス、オルガノイドの創薬研究の中での重要性について議論が行われた。

(5) 全体質疑

- 地域イノベーションや人材育成などについて議論が行われた。

(6) 委員討議

- 委員による討議が行われた。

(7) 主査からの講評

- 社会課題を広範囲に行っており、社会実装も含めて積極的である。研究シーズの創出は、研究者に依存するだけでなく、全体システムを構築すべき。コーディネータ等の活用含め人材の流動化が必要。特に、産との連携や流動化が今後重要であるとのことであった。

4. 分科会委員（敬称略、委員五十音順）

木野 邦器 早稲田大学 先進理工学部 応用化学科 教授（分科会主査）

大久保 明子 住友ベークライト株式会社 ヘルスケア営業本部  
バイオ統括副本部長

加藤 純一 広島大学大学院 統合生命科学科 教授

吉田 有人 キリンホールディングス株式会社 R&D 本部 キリン中央研究所  
副研究所長